

FLUTE

フルート

飯島和久 いじまかずひさ



◆出身 逗子開成高校、パリ・スコラ・カントルム音楽院、パリ・エコール・ノルマル音楽院
◆所属 上野学園大学短期大学部教授
◆趣味 畑、薪割り、料理
◆血液型 B型
◆星座 かに座
◆読者にひとこと 私にできたのだから皆もできる！
◆手紙の送り先 「飯島和久」で検索（PCのみ）

音、音、音が命！

今回からいよいよ本格的なレッスンとなりますが、読者のみなさんが実際に日々進んでいくペースでは書かず、毎回のテーマをゆっくり、とことん追求してゆくつもりですので、「なかなかよい音が出ない」などと悩んでいる人にとっては参考になると思います。また、中・上級者の方は確認として読んでください。そして、この12回のレッスンが次年度の新1年生指導の助けになれば幸いです。

■唇の穴は、意外に小さい!?

予備知識を持たずに、いきなり楽器を口に当てて吹くと、ほとんどの人は「ホォー」と、唇を「オ」の形にします。穴の大きさは縦・横とも約1cm! これではよい音が出るはずがありません。

まず、次のようなイメージを持ってください。唇は少し横に引き（「イ」と「エ」を発音するときの中間）、穴は縦が1mm、横が1cmくらいです。そして「エ」の唇で穴を閉じ、隙間から吹く感じ! 「えっ、そんなに小さいの!？」と驚くことでしょう（[図1] / 鏡で確認してみましょう）。

■自分の手のひらに息を当ててみる

まず楽器を持たず、唇から5cmほど離れた手のひらに向けて、先ほどの小さい穴で息

を吹いてみます。このとき、冷たく、一点に強く当たるように吹きます。息が暖かく感じるようではだめ、また、手のひら全体に当たるようでは唇の穴が大きすぎです（[図2]）。ほんとうに隙間から吹く感じですよ。

できない人は、「いったん唇を閉じて、圧力をかけて穴を開ける」ことから始めてください。息の方向は顔を動かさずに、下アゴだけで上にしたり下にしたります（[図3]）。

それではいよいよ頭部管で吹いてみます。

■こうすれば、音が出ます

5月号に書いたように、人によって楽器に唇を当てる位置は違いますが、**下唇で穴を $\frac{1}{3}$ から $\frac{1}{4}$ ほどふさぎます**（[図4]）。軽く当てるのではなく、しっかり当てるようにします。

では吹いてみましょう。ただし、管の右側の穴を手のひらでふさいでください（[図5]）。このとき、当たった唇が「ホォー」と「オ」の形に変わってしまう人が多いですね。音が出ないので唇をゆるめてしまうためですが、それではいけません。唇の穴の大きさは変えず、息の方向を上にしたり下にしたります（[図6]）。

もしそれでも音が出ない人に、私の練習方法をお教えます。唇を「フルートを吹く形

にして息を出し、楽器を徐々に近づけていきます。唇から1cmくらいまで近づいたところで、かすかに「出そうな雰囲気」がありますね。次に、より大きい音（初めは雑音でもかまいません）を探しながら、ゆっくり楽器に近づけ、そしてしっかり唇に押し当てる方法を試してください。そうすることにより、手のひらに向かって吹いた感覚で吹くことができます。

このとき、少し音が出ても「ここがよさそう」と決めてしまわず、上下左右斜めに数mm程度楽器を動かしたり、内側、外側に動かしたり、あらゆる可能性からよい音を探してみてください（[図7]）。

■音が出ても、口から楽器をはずさない

「やったー!」と、私も初めて音が出たときは飛び上がって喜びました。しかしいったん唇からはずして、また当てて吹くと「スカーッ」となってしまいます。慣れてしまうと100回当て直しても同じ音が出ますが、最初はそうはいかないので、よい音が出たら唇から離さずに、そのまましばらく吹き続けましょう。また、音が出ないときに鏡を使いがちですが、重要なのは、よい音の出る位置を確認することです。まず、よい位置を鏡でチェックしておいてから、音がうまく

出ないときに、改めて鏡を見て修正してください。

■頭部管の穴から手を離す

音がだいたい安定して出るようになったら、穴をふさいでいる右手を離し、両手で管体を持ちましょう（[図8]）。右手を離すと音が出ない人は、もう一度ふさいで練習しましょう。

また、鏡を見ずに、感覚で位置を覚えることもやってみてください。そして、今度は何回も唇に当てたり離したりしてみてください。

